



魅力ある農村づくりのために ミックスフラワーを活用しましょう

北海道岩見沢専技室
(居住環境担当専技)

太田 アイ子

1 はじめに

昭和39年ころ、北海道の農村が府県の農村に比べ殺風景であることを憂慮された北海道知事(当時、町村金五氏)は農村環境美化運動を提唱され、農家の屋敷周りにもっと花や木を植え、潤いのある農家生活を築くように普及事業でも花壇づくりや庭づくりの指導が盛んに行われてきました。

この結果、東神楽町や中札内村などでは、どこかの農家の庭先にも見事な花壇が作られ、花の町として全国的に知られるようになりました。

これらの花壇づくりは1年草のため、毎年、春早くから種をまき、育苗、移植などに多くの労力や時間が費やされており、最近では労力不足のため、花壇づくりを続けていくことが難しくなってきたところもあります。

そのために、あまり手間もかからず農村の魅力を引き出せる方法はないかと模索していたところミックスフラワー(ワイルドフラワー)のあることを知り、昨年は生活改良普及員がプロジェクトとして、各地で実証・調査に取り組んできました。

2 ミックスフラワーとは

ミックスフラワーとは、10年程前に海外で荒地や道路脇、工場周辺などの環境美化を目的とし、植生工事や家庭の庭にミックスフラワーという野生に近い草花を数種類から10種類混合して播種する方法が紹介され、日本にも導入されてきました。都府県では、8年程前より道路の法面や河川の堤防、公園、住宅地の周辺などの緑花や工場周辺の環境美化、夏のスキー場、リゾート地、観光地の景観整備などに多く用いられていました。最近では

一般の家庭や農家の庭先でも栽培されるようになってきております。

北海道でも、3年程前より公道の道路沿いや公園河川敷などに農村活性化対策等でこのミックスフラワーやコスモスが播種されているのが見られるようになりました。また、観光農園などでも農地の一部にミックスフラワーを利用したり、道路沿いに播いて「フラワーロード」として農村環境美化や景観づくりに活用されてきており、まちの活性化に一役買っています。

3 各地での取り組み状況

(1)公共施設周辺での実証

農村にある公共施設は生産と結び付いた農業近代化施設やコミュニケーションの場としての公民館、改善センターなどがあります。これらの建物自体は立派でも、その周辺は殺風景のところが多いのです。圃場の中にポツンとライスセンターなどが建っているのをよくみかけます。建物だけは補助事業で建てたが、周辺整備まで手がまわらないということで、これらの建物が自然豊かな農村景観を阻害しているところもあります。

黒松内町では、手づくり加工センターの建設に伴い、隣接する農地との境界にわい性コスモス(赤・桃・白・ミックス)を平成5年5月31日、64m・2列をシーダーテープにより直播しました。周囲には防風林などもなく、風の影響が大きい場所でしたが、倒伏も少なく、7月20日から次々と咲き始め、10月28日までの約100日間咲き続けました。また、霜にも1~2度当たりましたが、あまり変化なく、霜にも比較的強いことが実証されました。今回の播種は5月31日でしたが、これより早く播



写真1 公共施設まわりに花を植えるとやさしい感じになる



写真2 殺風景な公共施設まわりにも花を植えてふれあいの場となる

くことによって開花期間が長くなると考えられます。周囲が牧草地なのでコスモスの花がアクセントとなって美しい景観になりました。

この施設を利用に訪れた人々もミックスのコスモスに関心が高く、立ち止って眺める人が多く、「きれいだ」「ほっとする」などの良い評価が得られました。このように公共施設などの周辺に花などが植えてあると人々の気持も和み、ふれあいの場としてもふさわしいところになります。また、町外から訪れた人々にもこの美しいフラワーロードは感動を与えたようです。このことが農村環境を考えるきっかけづくりに発展しています。

(2)村いっぱいのフラワーロード

留寿都村では「花と笑顔の留寿都村」を実現するため、普及所がコスモスのシードテープによるフラワーロード構想を提案し、4地区53戸の農家が行い組みました。

その結果、他町村からも問い合わせがあり、「村

中どこをみてもコスモスが咲いて気持ちよい」「次々と長い期間花を楽しめた」などの意見が聞かれ、来年も続けたいと地区の人々は意欲を燃やしています。特にコスモス以外の花を試したいとの意見も多く、これを契機にゆとりある暮らしの改善につながり、村の名所になればと張切っています。

(3)住宅へのアプローチ部分にミックスフラワーをとり入れて

公道から住宅までのアプローチにミックスフラワーを取り入れているところがあります。

花があることにより、気分をはなやかにしてくれ、外からみても農家のゆとりが感ぜられるところです。ミックスフラワーの場合、面積、距離とも視界に入るだけのボリュームが必要です。

また、花を植えることによって、植えた花が映えるように周囲のゴミや雑草の処理を含めた環境美化に努めるようになり、農家環境のイメージアップにつながったと思われます。他から評価されることにより、地区の人々は自信と誇りが湧き、花に対する愛着が一層高まってきました。

(4)集落で取り組んだフラワーロード

観光農園などを多く実施している余市町梅川地区では、都市住民が多く訪れるところであり、味覚の丘にふさわしいコスモスのフラワーロードを普及所の提案によりつくりました。

播種作業には、梅川地区住民45名(男性38人、女性7人、関係機関7人)の共同作業で行いました。コスモスロードとしてボリューム感を持たせるため、比較的背の高いベルサイユという品種とわい性のセンセーションという品種を組み合わせ、



写真3 地区住民参加によるフラワーロードづくりをしているところ



写真4 地区住民参加によりコスモスロードづくりの作業を終えて満足そうな顔



写真5 余市町梅川地区コスモスロード

総延長 210 m × 2 列としました。ペルサイユは発芽、初期生育も良く、開花も早かったのですが、後半、灰カビ病なども見られ、枯れるのも早かったようです。センセーションは発芽も初期生育もあまり良くなく、開花も遅かったのですが、9月に入ってから繁茂し、勢いは逆転し、開花数も多く、霜の降るまで花を十分楽しめました。このように単品でなかったのが良い結果となりました。

フラワーロードにしたことにより、空缶やゴミの投げ捨ても減少し、共同作業により地域のコミュニケーションが図られました。見事に開花した時には、「良かったね」「もう少し延長しよう」など前向きな意見が多く聞かれました。

(5) 個別農家の取り組み

最近、酪農家がレストランを開業したり、民宿を開業したりするところが増えてきました。

レストランの前庭や道路沿いにミックスフラワーを播き、消費者からはとても好感がもたれてい

ます。また、観光農園の周りにもミックスフラワーを播いているところがありますが、お客の入り込みが違うように思われます。花摘みをしたり、花の中で写真を撮ったりして、自然の中で長時間遊んでいく人が多いのです。花があると商品の価値を高める役割もあるようです。花によるおもてなしは大切なことと思います。単調で平坦な道路にも、花が植えてあることにより、景観にもアクセントが加わり、ドライバーの心にもゆとりが生じ、注意を促す効果も期待できるなど、観光産業には欠かせないものとなっています。

4 ミックスフラワーの栽培上の注意点

- (1) 栽培は簡単です。あまり手間をかけなくても次々と美しい花が咲きます。いろいろな花の種子が10数種類混合されていますが、種子の大きさも異なっていますので、播種する時は種子量の10倍くらいの土とよく混ぜておくと均一に播種できます。
- (2) 播種床は耕し、雑草は取り除いて均一に整地しておきます。
- (3) 肥料は土壌条件が良ければ無肥料でも育ちますが、状況によっては基肥として化学肥料を m^2 当たり40~50gを施します。
- (4) 圃場が乾燥していれば播種前に十分灌水を行います。
- (5) 播種方法はバラ播きでも条まきでもよいですが、後からの雑草処理のことを考えると条まきがよいようです。
- (6) 播種量は $1 m^2$ 当たり1~2gが見当です。
- (7) 播種時期は4月下旬から6月中旬ころ(北海道の場合)までに播くとよいのですが、早く播いた種は早く開花しますので、長く花を楽しむためにはできるだけ早く播いた方が長い間楽しむことができます。
- (8) 発芽するまで、土の表面を乾燥させないように灌水します。
- (9) 雑草の処理は生育初期のうちに1~2回行い、その後は花の草丈よりも大きくなる雑草を抜き取ります。
- (10) 病害虫防除はほとんど気にすることはありませんが、予防のために殺虫剤を一度散布するくらいでよいのです。

(11) ミックスフラワーはある程度の面積(10坪くらい)がある方が見栄えがします。

以上のポイントを守り、作業をしますと、初夏から秋まで美しい花が次々と咲いて楽しめます。

5 農家の人々の評価と反応

ミックスフラワーを農村景観づくりの一手法として、人目につきやすいところに播いて農家の人々の意識を促すためのアンケート調査を実施した結果は次のとおりです。

(1) 花の種子で、ミックスフラワーについて知っていましたか。

(ア) はい 35% (イ) いいえ 64%

(2) ミックスフラワーを見た感想は。

(ア) きれい 80% (イ) まあまあ 20%

ほとんどの人がきれいと評価しています。

(3) 来年はあなたの家でも播いてみたいと思いますか。

(ア) はい 76% (イ) いいえ 24%

(4) ミックスフラワーをどんなところに播いてみたいですか(複数回答)。

(ア) わが家の道路沿い	51%
(イ) 公共施設周辺	37%
(ウ) ビニールハウスの横	2%
(エ) 公道の法面	15%
(オ) 畑の空地など	34%
(カ) その他	23%

(5) 従来の花壇用の花(サルビア・マリーゴールド・ケイトウなどの単品)と比較してどう思いますか(複数回答)。

(ア) 苗づくりをしないので、手間がかからなくてよい 58%

(イ) 開花がその季節に応じてきれいに咲くのがよい 39%

(ウ) ミックスフラワーは屋敷周りには適さない 3%

(エ) 花壇(単品)は手間はかかるが、花壇の方がよい 9%

(オ) 北海道のような広大なところはミックスフラワーが適している 28%

(6) 屋敷周り、公共施設などに花が咲いているのを見て、どう思いますか(複数回答)。

(ア) 仕事で疲れていても、心をなごませしてくれる 55%

(イ) 花の管理が大変なので、木を植えた方がよい 14%

(ウ) 季節感が実感でき、見る人に優しさが伝わってくる 58%

(エ) 農村のゆとりが感じられる 23%

(オ) 建物などの風格がかもし出される 7%

(カ) 花がきれいに咲いていると、そこに住んでいる人柄が忍ばれる 14%

(7) あなたは住みやすく美しい農村にしていこうためには、どんなことをすればよいと思いますか。

◎ 農村環境を整備するには、点から面的な広がりをみせることで、一層の効果が表れると思います。農家個々の取り組みはもとより、地域や関係機関が一体となった取り組みが必要と思われます。

◎ 花も大切だが、樹木を植えることも大事です。

◎ 景観がよく、人を引きつけるような魅力ある農業を目指すことが必要です。

6 まとめ

花というと、都市でも農村でも、花壇に花を植え、庭先に花を播くのが一般的でした。

札幌市の大通り花壇や富良野市のラベンダー、美瑛町のポピーの咲く丘に毎年多くの観光客が訪れるようになり、各地でも花壇コンクールや花いっぱい運動が盛んになってきました。

近年、人々の暮らし方も経済優先の考え方から、うるおいや安らぎのある快適な環境を求められるようになってきたためと思われます。

特に北海道のような広大で単純なところでは、ミックスフラワーがよく似合います。平坦で単調な道路沿いにも花が植えてあると、歩行者もドライバーも心がなごみます。公共施設などにも花があると、そこに住んでいる人々の優しさが伝わってきます。丘一面に広がる花畑は訪れる人々に感動を与えます。

このように彩り豊かなミックスフラワーは農村景観の修景には最適であることが確認されました。

これからは、農業生産ばかりでなく、環境保全にも多くの目を向け、北海道中を花と緑で魅力ある農村をつくりあげることが夢ではありません。